

会議録

会議の名称	第1回子ども子育て審議会計画専門部会
開催日時	令和6年4月16日（木曜日）午前9時30分から11時20分まで
開催場所	田無第二庁舎4階会議室3
出席者	委員：小野部会長、井上委員、篠原委員、島崎委員、菅野委員、武田委員、中村委員、平野委員 事務局：遠藤子育て支援部長、菱川子育て支援課長、齋藤幼児教育・保育課長、中村幼児教育・保育課主幹、笹本幼児教育・保育課主幹、宮崎子ども家庭支援センター長、栗林子育て支援課長補佐、倉本子育て支援課副主幹、岡田子ども家庭支援センター長補佐、本谷子育て支援課調整係長、山岡児童青少年課管理係長、越川子育て支援課調整係主任、須藤子育て支援課調整主事
議題	1 議題 (1) 子育て支援ニーズ調査及び子どもの生活実態調査の結果報告書について (2) 子どものワークショップについて (3) 若者調査について 2 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市子どもワークショップ企画案 資料2 西東京市若者調査 調査項目（案）
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
1 審議 （1）子育て支援ニーズ調査及び子どもの生活実態調査の結果について ○小野部会長 はじめに、今年度の検討スケジュールについて、事務局から説明いただく。 ○事務局 次期計画策定に向けて、今年度は、若者調査を6月に予定しており、子どもワークショップは7月中旬と8月上旬の合計3回で実施する。 各種調査結果の確認は、4月中旬以降に子育て支援ニーズ調査と子どもの生活実態調査の結果の確認を行い、8月には子どもの意見や若者調査の結果の確認を行う。 教育・保育の量の見込み、確保の内容については、夏以降に量の見込みの内容を検討し、10月頃に確保の内容を検討する。 計画素案については、6月以降に計画骨子、基本理念・方針・施策体系、基本施策を検討し、10月下旬から計画の素案を検討する予定である。また、計画の子ども版として、小中学生向けのワーク形式の資料の作成を予定している。 パブリックコメント、市民説明会は、12月の実施を予定している。 検討内容については、子ども子育て審議会や計画専門部会においてご審議いただくほか、庁内の子ども施策推進本部と部会においても検討する予定である。	

○小野部会長

それでは、子育て支援ニーズ調査と子どもの生活実態調査について、結果が取りまとめられたとのことなので、確認する。

○事務局

子育て支援ニーズ調査結果報告書の説明

○小野部会長

報告書の概要や内容、読み方などについて、認識を合わせるために事務局から説明があった。委員の皆様には、第2回計画専門部会までに内容を確認いただき、次回は、調査結果から見える課題や、どのような支援が必要なのかなどを議論したいと思う。

報告書について、何か質問等はあるか。

○委員

特になし

○小野部会長

事務局から、顕著に傾向が見られた結果を簡単に説明いただきたい。

○事務局

印象的な結果をいくつか説明する。

10ページの間6の子育てを行っている方については、「主に母親」が前回調査と比較して約15ポイント減り、「父母ともに」が約17ポイント増えており、子育ての参画に対する考え方が変容しつつあると解釈できる。

15ページの間11の母親の就労状況については、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が前回調査と比較して約10ポイント減り、母親の就労状況の変化を見ることができる。また、23ページの母親の就労予定がない理由については、子育てや家事に専念したい方は減り、働かない方の状況についても変化を見ることができる。

25ページの間12の育児休業の取得状況については、前回調査と比較すると、母親の取得者が増えており、父親はまだ割合は低いものの、取得者が約8ポイント増えた。子育てへの関わり方が、変わってきていることが分かる結果となった。これは他自治体の調査結果も同様の傾向がみられる。

29ページからの教育・保育の事業の利用状況については、前回調査よりも約10ポイント増えるなど、変化が見られる個別の項目が多くあるため、目を通していただきたい。

○篠原委員

「その他」と回答している割合が多いものについては、具体的な内容が分かった方が分析の正確性が上がると思うが、内容は分かるか。

○事務局

「その他」の個別の回答も集計しているのでお示しすることは可能である。次回の会議までに設問を教えていただければ、次回会議にてお伝えする。

○小野部会長

続いて、子どもの生活実態調査を説明いただきたい。

○事務局

子どもの生活実態調査報告書について説明

○小野部会長

子どもの生活実態調査についても、第2回計画専門部会において内容を審議したいと思うが、報告書について何か質問はあるか。

○委員

特になし

○小野部会長

事務局から、顕著に傾向が見られた結果を簡単に説明いただきたい。

○事務局

9ページの問2の勉強をしている場所については、「塾やスクールなど」で困窮層と周辺層・一般層に顕著な差が出ている。

17ページの問3の勉強する方法については、中学2年生は「塾や習い事の教室で勉強する」が、一般層と困窮層で約30ポイントの差がついた。

177ページの問19は、生活困難度の分類に使用した設問の1つであるが、一般層の「全くなかった」の回答は、困窮層や周辺層と比較して非常に多くなっていた。当該設問結果に基づいて生活困難度を分類している特性上、このような傾向が出やすくなっているものの、特筆すべき点と考える。

183ページの問20の海水浴・川遊び・山に行く体験をさせられなかった理由について、小学5年生保護者で金銭的な理由を挙げた方は、周辺層でも1.4%と非常に少ないが、困窮層になると27.3%となっており、金銭的な理由で体験ができていないということが困窮層になると顕著に出てくる。問19同様に、当該設問結果に基づいて生活困難度を分類している特性上、このような傾向が出やすくなっているが、特筆すべき点と考える。

191ページの問21の新型コロナウイルス感染症の影響に関する設問は、世帯全体の収入が減ったと回答した方が、一般層と周辺層で約20ポイントの差があり、一般層と困窮層では約36ポイントの差がついていることを見ると、生活困難度が高いほど大きな変化があったと捉えることができる。

193ページの食料や衣服が金銭的な理由で買えないことが増えた方が、一般層で5.0%に対し、周辺層で40.3%、困窮層で57.6%となっており、生活困難層はコロナの影響を受けていることが分かる。

○小野部会長

報告書の公開について、確認したい。

○事務局

5月に市のホームページに報告書全文を公開する予定である。

○小野部会長

承知した。

委員の皆様には、次回の調査及び集計に向けたご意見についても、次回の会議でいただければと思う。

また、次回会議を欠席される方は、事前に事務局までご意見を連絡いただきたい。

(2) 子どものワークショップについて

○小野部会長

2月と3月に事務局と大学側で打合せが行われ、大学生に検討を進めていただいた。

また、3月の打合せの際には、私も含めた一部の委員も参加して議論をした。経験を踏まえたご意見をいただき、感謝する。

その後の検討状況について、事務局から説明いただきたい。

○事務局

資料1に沿って説明

○小野部会長

何かご意見等はあるか。

○平野委員

ワークショップの中で放課後の過ごし方について聞くとあるが、市として例示をしながら質問するのか、それとも広く聞く形にするのかは決まっているか。子どもは、経験していることであれば、聞けば答えてくれると思うが、経験していないことは選択肢にないため、答えが出てこないと思う。出てこない考えを汲み取るにはどうすればよいかを考える必要があると思う。

○事務局

放課後に限らず、どのような場所が居心地良くて、安心して過ごせるかを聞いていきたいと思う。

○小野部会長

子どもから子育て・子育てワイワイプランへの意見をもらいたいというのが背景としてある。計画全体を対象にすることはできないため、子どもから話を聞きやすいテーマを検討した結果の案だが、詳細を決めておかないとちらしにも書けないと思う。

中学生・高校生年代対象のテーマは、子育て・子育てワイワイプランとしているが、子どもにはあまり馴染みのない内容であるので、どのような表現が良いかご意見をいただきたい。

○平野委員

例えば「みんなにとって居心地が良くて安心する場所」というテーマにして、どのような場所であるかを小学生に聞き、可能であれば、見たり、体験できると良いのではないか。

○菅野委員

「これからの暮らし」と「今の暮らし」を考えることも子どもに分かりやすいと思う。

○武田委員

放課後の行き場所を尋ねると、「～しないとイケない生活」をしていて、子どもが願っているとは限らないので、「こんな場所があったらいいな」という問いかけでも良いのではないか。

○小野部会長

「どんな居場所があると良いか」、「どんなまちにしたいか」というテーマが考えられるか。

○武田委員

まちは難しいのではないか。こんなところに行けるといいなというくらいが、子どもが参加しやすいイメージを持てると思う。

○小野部会長

現在、ワークショップを小学生と中高生のグループに分けて、テーマもそれぞれ設定しているが、テーマを一つにすることも考えられるか。

○平野委員

ちらしに記載する内容は、もう少しフランクにした方が良いと思う。詳細の内容は、テーマを分けても良いと思う。

○小野部会長

いかに子どもに参加してもらうかが課題である。ちらしに記載するテーマが難しいと思われないような書き方にしたい。

○井上委員

気軽に、「教えて！」という方が、子どもの意見を引き出せると思う。

○小野部会長

その他にも、来週、武蔵野大学学生と打合せがあるため、伝えた方が良い内容についてご意見いただきたい。

○菅野委員

会場になる武蔵野大学は、近い地域に住んでいる方は参加しやすいが、それ以外の方の参加が少なくなるのではないかと思う。また、保護者の送迎が難しいために申し込め

ないことも懸念される。様々な地域の子どもの意見を聞くことも重要だと思うので、対策を検討する必要があると思う。

○小野部会長

今回は、武蔵野大学で開催することを優先している。
送迎については、「原則」と記載することで対応したい。

○平野委員

「送迎が難しい場合はご相談ください」とすることで、その懸念はある程度防げるのではないかと思う。

○篠原委員

送迎については、ボランティアセンターがあるので、確約はできないが頼むのもよいのではないかと思う。

○小野部会長

「子ども会議」の名称については、いかがか。

○島崎委員

大学生と一緒にワークショップをすることがわかれると良いのではないか。具体的に行う内容を記載した方が良いと思う。

○小野部会長

大学生が大学のキャンパスを使った企画の検討もしているので、そのあたりも盛り込めるとよい。

○井上委員

高校生にとって、大学のことも聞ける機会になるので、大学生と一緒にできることは魅力になると思う。

○篠原委員

小学生と中高生へのちらしは別にしないで良いか。年齢層によって打ち出し方を変えた方が良いと思う。

○小野部会長

小学生と中高生とでちらしを分けることはスケジュール的に可能かわからないが、計画策定部会としては、小学生と中高生とでちらしを分けていただきたい旨を事務局から大学生にお伝えいただきたい。

○事務局

承知した。

○島崎委員

会場の住所と地図があった方が良くと思う。

○武田委員

このちらしを持っていけば、ある程度の実施内容や行く場所等が分かるようにした方が良くと思う。

○井上委員

以前、子どもが持って帰ってきたちらしを見たときは、表面に子どもを引き付けるような内容を、裏面には開催場所や開催時間などの事務的な情報を載せていたので、そのようなちらしにしても良く思う。

○小野部会長

周知の方法についてのご意見をいただきたい。

各学校にはちらしを配布するのか。ポスターはちらしを拡大したものを使うという認識でよろしいか。

○事務局

ポスターの内容は今後検討するが、ちらしは小学4～6年生と中学1～3年の全員に配布し、高校はポスターで対応する予定である。

高校については、西東京市在住ではない方もいるため、その点は検討する必要があると考えている。

○小野部会長

対象者を市内在住に限定するかどうかについてはいかがか。

○事務局

現在の企画案は、在住の方が対象となっているが、在学の方も含む変更は可能である。

○委員

異議なし

○小野部会長

それでは、市内在住・在学の方を対象とする。

○事務局

私立学校に通学している方に市からの情報が伝達されにくいことが懸念されるため、委員の皆様には、私立学校に通っている方に情報を伝える方法についてのご意見を伺いたい。

○武田委員

児童館・児童センター、公民館、図書館、コミュニティセンターへはちらしの配布のみになっているが、ポスターは配布するのか。

○小野部会長

ポスターは、まだ話を詰めていないが、配布した方が良いと思う。

また、二次元バーコードは申し込みフォームだけではなく、ちらしが読み込めるものを掲載しても良いと思う。

○平野委員

中高生はInstagramを見るので、西東京市で活動している有名な方に宣伝していただいても良いと思う。

○井上委員

西東京市に在住しているユーチューバーで、中高生に人気の高いグループもいる。

○小野部会長

事務局から、誰に依頼するのか等検討いただきたい。

○中村委員

ショッピングモールは人が集まりやすいので、掲示しても良いと思った。

○事務局

商業施設への掲載が可能かは確認する。

○菅野委員

ちらしの作成やワークショップを担当している大学生は、このような経験がある方なのか。ワークショップでは進行を行う方の役割が重要になると思う。

○小野部会長

社会福祉を学んでいる方ではなく、将来起業したい学生であると聞いている。広報のノウハウは持っているのではないかと考えているが、子ども目線になっていない部分もあると思う。開催までに子どもとの接し方などの研修を行うことも検討している。

また、ワークショップ当日は、西東京市子どもの権利擁護委員、子どもの権利擁護相談・調査専門員も見ていただける体制にしたいと考えている。

○井上委員

定員を超える申し込みがあった場合は、どのように対応するか。

○平野委員

会場のキャパシティとスタッフの人数次第にはなると思う。

○小野部会長

公平性という観点では先着順でも良いと思う。

○平野委員

当日の不参加があるため、申し込みを締め切るのは定員より若干多めの申し込みがあった後でも良いと思う。

○小野部会長

定員を下回った場合の対応はいったん再募集をかける形にし、学校の先生方等にご協力いただきたいと思います。

ちらしについては、第2回計画専門部会に修正されたものを確認したいと思う。

(3) 若者調査について

○小野部会長

今年の6月に実施予定とのことで、本日の部会から検討を始めることになる。事務局案を確認しながら、議論していきたい。

○事務局

資料2に沿って説明

○小野部会長

調査項目は、資料のとおり決定したいと思うが、追加した方が良い要素等何かご意見はあるか。

設問15は、文章が長くなることを懸念して説明文を入れていない認識でよいか。

○事務局

ご認識のとおりである。施設の説明を入れた方が、そのサービスを知らない方にとっては、サービスを知るきっかけになるというメリットもあるが、一方で、説明文を入れてしまうと文章が長くなってしまうため、スクロールが大変になり、11個も回答項目があることで回答が面倒になり、離脱してしまう懸念もある。

メリットを重視し、説明文を入れる対応をしても良いと思うが、懸念事項を鑑みて説明文を入れない対応も選択肢の1つであると思う。

○平野委員

16歳以上が調査対象であれば、児童館は対象にならないのではないかな。

○事務局

過去の経験も含んでいるので、児童館を入れている。

○小野部会長

施設の名称は、市民の方は聞けば分かるものなのか。分かるのであれば説明は不要だと思いがいいかな。

○平野委員

私は知っているが、知らない方も多いと思う。

また、回答は、「利用した」「利用したい」の選択肢を分けた方が良いと思う。利用

していないが利用したい方や、利用したがそれがきっかけで利用しなくなってきた方などは、該当項目がなくなってしまうと思う。

○菅野委員

「利用したくない」は不要ではないか。

○小野部会長

利用したくない理由を聞かなければならないと思う。

○平野委員

利用したくない人が他の機関を利用しているのであれば、どこを使っているのかが分かれば良いと思う。

○事務局

詳しく聞こうと思えば、どこまでも聞くことができるが、一方で回答率が懸念点となる。特に、今回は16歳から29歳までが対象であり、回答の途中で調査から離脱しないようにしないといけないので、全体の傾向をつかめる設問と選択肢にしている。

利用したくないと回答したことがあった場合は、最後にまとめて自由記述で聞く方法もあると思う。

○小野部会長

このアンケートの回答時間は何分程度を想定しているか。

○事務局

20分を想定している。すでに最大限の設問数になっているため、追加等は難しい部分と、設問を削るのも難しい状況である。

○小野部会長

自由記述欄は追加できるか。

○事務局

追加は可能である。

○小野部会長

設問8のあなたが参加している、まちづくり活動は、市内の活動に限定していると思うが、その前に設問を追加して、市内か市外かを選べるようにしても良いのではと思う。市外の活動の様子を知ることでもある。

○篠原委員

設問7の周囲の人とのかかわりの質問について、a～dの項目に当てはまらない方がいるのではないかと。例えば、学校や地域の人以外で趣味で知り合った友人、インターネット上でつながりのある人など、今はつながりが広いのではないかと。

bの学校に抵抗がある人もいると思う。

○小野部会長

市としては特に地域とのかかわりについて知りたいということだと思つたため、学校に限定せず、学校や趣味やスポーツなどで出会った人とかかわりとしても良いと思う。

○井上委員

cには、サークル活動もあると思う。

○篠原委員

選択肢に「かかわりがない」を追加した方が良いのではないか。

○事務局

趣味・習い事と学校・職場・アルバイト関係で分けるのも一つの方法ではないかと思う。オフィシャルな活動かプライベートな活動かで分けるイメージである。

○小野部会長

学校と職場、それ以外の趣味や習い事という形で分けていただければと思う。

○事務局

本日のご意見を修正し、第2回計画専門部会で確認いただきたい。

○島崎委員

対象者に送付するはがきは見せていただけるか。

○事務局

現在準備しており、第2回計画専門部会にてお示しする。

○小野部会長

そのほかにご意見がある場合は、4月19日までに事務局へお伝えいただきたい。

2 その他

○事務局：

次回は、4月25日に第2回計画専門部会を予定している。

○小野部会長：

それでは、第1回子ども子育て審議会計画専門部会を閉会する。

閉会